

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373401037		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム美和		
所在地	岡山県真庭市榎東43-1		
自己評価作成日	平成22年3月13日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatiionPublic.do?JCD=3373401037&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成22年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

古民家を改修した施設です。施設の周辺は、田んぼ、畑、山がみわたせ元気な時を過ごした環境にしています。施設には、庭があって、池には鯉が泳ぎ餌やりも日課の一つになっています。また、正月のとんどさんには、松飾りを持って地域の人達がしているとんど焼に参加したり、春には、花見と一緒にしたり秋祭りでは御神輿が施設の前まで来て下さいます。御神輿を拝み収穫を喜び祭りを楽しんでます。そして、夏には、施設に地域の方を招き、利用者、家族、ボランティア、職員で納涼祭をして夏の一夜をたのしみませす。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成17年にはこの地域との縁もなく、管理者も蒜山から通って来るという中で設置されたので、最初は近所の人にも理解されず大変な目に合ったそうだ。当時はグループホームというもの、認知症(当時は痴呆)という病気に対しまだ社会の中でも認知されていなかったのだから辛かったと思う。20年当たりから近所や地域の人々も管理者や職員の努力の甲斐あってようやく馴染んでもらえ協力的になってきた。それがこのホームの主催する納涼祭であり、多くの人も集まって皆で楽しめるようになった。このホームは蒜山の特別養護老人ホームの管轄であるが、その荘長やグループホームの管理者も協力してくれ、職員も安定し、笑顔で利用者にも接しているため、利用者も明るく楽しんでくれているホームだった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	気持ちの良いケアに努める	開設して5年を経過した今も理念の思いに全くぶれはなく、毎年、母体法人に提出する事業計画のスローガンとして理念を掲げ、全職員で共有して実践している。年度末には成果を見直し事業報告として提出している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる四季の行事に参加している。	ホームの畑で土いじりをしていると、通りがかった近所の人と話しかけてくれて、時には余った苗や収穫した野菜の差し入れがあり、植え付けを手伝ってくれる等自然な付き合いができています。ボランティアの慰問や、小学校・保育園との交流もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中々出来にくいです。納涼祭や畑での作業等を見てもらい理解してもらっています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域代表者・市職員・施設職員と話し合い行事等組み入れています。	地域住民・利用者・家族・地域包括支援センター職員等が参加して2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。出席者から地域行事やボランティア慰問の紹介がある等、会議開催効果も上がっている。	運営推進会議出席者も定着し定期的に開催できているので、今後は出席者から紹介を得る等して新たな参加メンバーを募ってみてはどうだろう。様々な分野からの助言・協力は心強い。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	真庭市のグループホーム連絡会議において市職員と連絡をとりあっています。	何かあればその都度市町村担当者に相談し、指導・助言を受けている。地域包括支援センター職員は毎回運営推進会議に出席し、災害や認知症の理解と支援についての資料提供や認知症サポーター研修の紹介をしてくれる等協力体制ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	オープンを心がけ玄関の施錠はしていません。居室に関しては、無断外出・転倒等の安全確保の為に施錠しています。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、職員にも伝えている。もし自分がそうされたらどう思うとか自分の親がされて嫌な事はやめよう等、判り易く職員に話している。行き届いた見守りで減奈くん施錠もなかった。。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時間を利用して話し合い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一人対象者が居られるので身元引受人と市職員と相談です。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項等の説明をしています。改訂等の際は、文書等で連絡して来所時に説明しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に於いて利用者や家族から意見を聞いています。	たよりを発行して様子を伝え、玄関に意見ポストを設置し、電話や面会時の話し合いでも意見や要望を聞く様心がけている。運営推進会議には順番に一家族の家族と利用者に出席依頼して相互理解を図っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議において聴いています。	連絡ノートで情報の共有を図り、よほどの事が無い限り休みの職員も出てきて全員参加の職員会議を毎月開催し、意見交換している。代表者は現場の声に耳を傾けてサポートしてくれている。職員達はチームワークもよく明るい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内での規約道理に遂行されています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	荘内研修を行い知識の習得に努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に一度真庭市のグループホーム職員と市職員による会議を開催したいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族からの要望を尋ねています。入所してからは本人が何が必要かを観察し安心を確保しています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時調査に於いて家族からの要望を尋ねています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時調査に於いての聞き取りと本人観察して対応しています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることをしてもらいながら職員もその中に入っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られた時本人の介護の申し出があれば家族にお願いしたり、職員が家族とともに本人の暮らしを話して本人の生活状態を共有するように心がけています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が話すこと聞いたり、また、大切にしてきたことを尋ねたりしています。	「あらかのあの人」知り合いの車とすれ違い手をふる。「この坂オートバイで登って、あそこの酒屋で酒やビールを買ってあの店にもよう来よった」近隣出身者が多いので、馴染みの人や場との交流は多い。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	理解出来る人に話ながら職員も関わり合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば支援しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴えを充分聞いて話し合い希望に添えるようにしています。	「何着よう。これ脱いであれ着よか」いそいそお出かけの服に着替える。「ぜいたくミルク？これにしようか」コンビニで飲み物を選ぶ。職員は「どうぞどうぞ、何でも言って下さい」利用者本位の対応ができていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフヒストリーにより今までの生活歴を尋ねています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	みんなでする事や個人でその人に出来ることにしてもらうようにしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスをしています。	本人・家族から管理者(計画担当者)がよく話を聞いて、情報を職員に伝えてプランを作成し、全員で様子を見ながら検証している。何かあればその都度、定期的には半年から一年に1回プランを見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有をして支援していますが、記録がなかなか出来ません。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に対応できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での催しには出来るだけ参加する様にしています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時、家族に伝えたり、往診時に医師に報告しています。	月2回来てくれる協力医や、何かあれば対応して貰える提携医院を確保している。それ以外の病院受診は家族にお願いしているが、緊急時には同行し家族の都合がつかぬ場合はホームでも受診支援をしているので、それぞれの主治医との関係も構築できている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告を受けたことは、かかりつけ医の看護師に相談し医師の指示を受けたり、受診時、家族に伝えています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時点で病院訪問して看護師と話をしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に重度化したときの対応の説明をしています。その時にならないと分らないが入院すると思います。と家族の返事があります。、	本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、家族や主治医の協力が得られるならば、職員ともよく相談し、できる限りの支援をしたいと考えている。ホームのできる事やできぬ事を家族に伝え、主治医の意見もふまえてその都度よく話し合っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい機械が入ると説明して使えるようにしています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をしています。運営推進会議の席で地域の方が協力を言われます。	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し、利用者も参加して年2回避難訓練を実施した。「災害が起きたら協力します」運営推進会議では地域の人の心強い言葉もあった。火災通報専用電話やスプリンクラーも設置済みである。	ホームは昼を想定した避難訓練を実施しているが、今後は夜を想定した訓練も行いたいと考えている。いざと言う時の対応はとても重要なので近所の人の協力も得て是非実現して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けは他の人に聞こえないよう耳元で声掛けしたり、ちょっと、と声掛けして誘導しています。	「お前のこしらえたのは旨いと主人もほめてくれた。鯖寿司作って皆に喜ばれた」料理自慢の人の指南で寿司を作って皆で食べる等その人の得意を活かした支援ができています。「ちゃん付けはやめよう」職員会議で呼び方についても話し合った。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶タイムじには、好みの飲み物を尋ねています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々自由に過ごせるようにしていますが、職員側が、する事を尋ねて乗ってくれば少しの時間でもしますが、出来ない事が多いです。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	クリームの購入やおしゃれが出来たときは、綺麗と誉めて次にもおしゃれをする気持ちになるように声掛けをしています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり等の準備・盛りつけ・食事・食後の片付けをしています。	ミキサー食、小さく切る等その人の状態に合わせて食べやすく支援して、介助の必要な人の傍らには職員が付いて皆で談笑しながら食事していた。「あんた、これ残っとるけど美味しいよ」仲間同士の助け合いもあった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分一日1500～1800ccになるようにしています。食事量は、個々にあった量を提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る人は声掛けして個々の歯磨きの確認と出来ない人は支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄千エック票にて個々な排泄パターンを把握してトイレの声掛け、誘導に努めています。	各自の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声を掛けトイレ誘導できていた。バケツやゴミ箱に排尿していた人がホームに来て、ここがトイレの意識付けと水分補給の調整で改善する等良くなった事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取に気を付け一日1500cc1800cc飲んでもらうようにしたり、繊維のある食物を取り入れたりしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るようにしています。	毎日でも入浴できるが、本人の希望を聞きながら2日に1度は入浴してもらうよう誘い、ゆっくりのんびり入浴タイムを楽しめるよう支援している。入浴拒否の場合も無理強いせず、タイミングをずらせ人を替えて、その気になるよう声をかけている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望されるようにしていただいています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書にて確認しています。分からない時は、かかりつけ医に尋ねています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事等でお寿司を作ったり、お好み焼きを焼いたり気分転換をしています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや喫茶店でのお茶タイムの時間を作っています。	買物・散歩・畑づくり等日常的な外出以外に、初詣・花見・紅葉狩り等季節の行楽にも出かけている。「醍醐天皇の別れの木、あそこへも行った。色々連れて行ってもらった」。天気が良ければドライブを楽しみにしている人もいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいと希望があれば所持してもらったり外出時には買い物をしてもらっています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、職員が電話をかけ話が出来るように支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要最小限の物だけにして混乱しないようにしています。	利用者の手形や書道作品・季節感溢れる雛人形共同作品等を掲示し、親しみやすい雰囲気漂っている。食卓以外にテレビを囲んで長ソファ・障子を開けたら日本間等、気分に合わせた居場所も多い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごしているときは、見守りだけにしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物を持ち込んだり使い慣れた物を側に置いています。	花や家族の写真、お気に入りの縫いぐるみやマスコットを飾る人やダンス・整理棚・イヌ等を持ち込む人も居てどの部屋もその人らしい居室になっていた。各部屋に洗面台があり、窓からの眺めも良く明るい感じがする。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分かるように名前を書いたり、共有場所にはも名前を付けています。		